【ポスター発表】

認知症高齢者支援における福祉・医療専門職へのバリデーション導入の効果

（その２）

－認知症高齢者支援におけるストレスに着目して－

○　関西福祉科学大学　　成清　敦子（3384）

家高　将明（関西福祉科学大学・7811）、米澤　美保子（関西福祉科学大学・7409）、

都村　尚子（関西福祉科学大学・3861）

キーワード：バリデーション、認知症高齢者、ストレス

１．研 究 目 的

高齢社会にあって、介護を要する高齢者が増加する中、認知症高齢者への支援は重要な課題の一つである。認知症の症状は極めて多様であるが、その進行が進むと、言語を操りにくくなったり、他者とコミュニケーションをとることが著しく困難となり、介護する側はご本人の気持ちを受け入れ、理解したり、主訴を把握することが難しくなる。高齢者支援で重視される“寄り添うケア”や“最期までその人らしく過ごしていただくためのケア”を目指して、さまざまな実践報告が行われているが、情動面へのアプローチについてはまだ模索されている段階にある。

認知症高齢者への支援をめぐっては、近年、認知症高齢者とのコミュニケーション法としてナオミ・フェイル（Naomi Feil）によって開発されたバリデーション技法がある。この技法は、認知症高齢者の感情に焦点をあてながら、尊敬と共感をもって関わる、利用者を中心とした具体的なケアの理論である。国外では 7,000 施設以上の施設で採用されており、わが国では 2002 年に導入されて以降、バリデーションワーカーらを中心に施設における実践が展開されている。国内においては十分な実証例が蓄積されてはいないものの、欧米では先のフェイルらによる実践的研究が行われており、バリデーション技法の対象者である高齢者への効果も報告されている。今後は、さらに認知症高齢者への支援に関わる専門職に対する効果も含めて、その方法論としての有効性は検証するに値すると考える。

そこで、本研究では、バリデーション技法の効果として、特に後者に焦点をあて、福祉・医療専門職への影響を認知症高齢者支援に関するストレスの観点から明らかにする。

２．研究の視点および方法

本研究では、保健医療福祉機関・施設の福祉・医療専門職を対象としたバリデーション研修（以下、研修）に参加した 327 名に対して、研修の前後で自記式による質問紙調査を実施した。質問紙記入は研修が行われる会場で実施し、その場で回収を行った。研修の開催地と開催日、参加人数はそれぞれ、兵庫県但馬地区 2012 年 8 月～9 月　99 名、鳥取県 2012 年 11 月　22 名、京都府丹波市 2012 年 11 月　206 名である。質問紙の設問は「属性」7 問、

「認知症高齢者理解(欲求感情信念 6 問、認知症高齢者支援に関するストレス 6 問)」12 問、「介護者の自分自身の仕事に対する思い」3 問の全 22 問である。属性意外の設問は 5 件法による回答である。

本研究では、「認知症高齢者理解」のうち、認知症高齢者支援に関するストレスに着目する。調査内容は、鎌田（2007）が開発した社会福祉施設職員用のストレッサー尺度における下位尺度（利用者支援）を用いて、「その通りだと思う」（5 点）から「全くそうは思わない」（1 点）の 5 件法により回答を得た。なお、本研究は関西福祉科学大学共同研究助成を受けて実施した。

３．倫理的配慮

本研究は、「介護者の認知症高齢者に関するアンケート」の実施にあたり、各自治体に研究の目的、意義、方法を説明のうえ、収集したデータを研究目的以外で用いないことを文書にて説明し、同意を得た。並びに、関西福祉科学大学倫理審査委員会の承認を得た。

４．研 究 結 果

認知症高齢者支援に関するストレス（6 問）について、研修前後にそれぞれの平均値に差がみられるかについて、t 検定を行った。その結果、すべての質問項目について有意差が見られた（$p<.01$）。

次にこれらのすべての質問項目における研修後の平均値から研修前の平均値を引いた値を従属変数とし、「性別」、「年齢」、「雇用形態(正規・非正規)」、「経験年数（5 年未満・5 年以上)」、「保有資格(なし・福祉系・医療系)」を独立変数として重回帰分析を行った。その結果、「認知症高齢者のニーズに対応しきれない」と「経験年数」のみに有意な関連が認められた（$\beta=-.129$，$P<.05$）。

５．考 察

今回の調査から、バリデーション研修は、受講者の認知症高齢者支援に関するストレスに一定の効果があることが明らかになった。また、重回帰分析の結果、「認知症高齢者のニーズに対応しきれない」の設問に限定されるが、バリデーションの効果に「経験年数」が影響する可能性が示され、経験年数の短い方が効果の大きいことが明らかになった。よってバリデーション研修は、認知症高齢者に対する支援を高めるために、新任研修などで導入される意義があると考えられる。

【引用文献】

鎌田大輔（2007）「社会福祉施設職員用ストレッサー尺度の作成」『福祉心理学研究』4(1):26-34.